



馬場佐十郎譯

アルシムフォーリイ
工能書

文化四卯年
始に抄後
筋海をス

洋学文庫
文庫 8
C 266



アルレムヨリイ功能和解



此系の効多き事誠小奇と云ふ所不堪なり
内服されん神経動脈を調和し膝理小
達する所の精氣ふるむりやして周流順環して
處として功を成たざるはる一都て二便をも
糞物を送りむけの功あり、
毎夜寐るふ幅して十五滴を服されん淋瀝の

瘧疾和け且石淋の石を解き下し尿道の
後損を愈むの奇功あり或人金瘡を患ふ
十二年瘧中虫を食す一息息近くなる
難治の瘧ふけを薬を用て平愈せり是也
瘧に疑ふところれ中も一人石淋を患て
後系するより三年瘧也其功を得ず
故に又瘧疾の系を後するを既し二なる

及へとも其功なく甚瘧させしは系を興て
多日を経るべく全快せり凡は系を隔り
中二滴を後するもの後中より石を悉く
解死し是を用て暖氣を覺する人
常に用ゆるなり功を得る者多し
此薬は胃腑内弁の筋脈弛之を補し
手及足の腰骨の痛を止む凝血を解死

皮膚の斑及び小便淋瀝を治す諸般の
熱毒肺肝胃の諸病後中の瘰癧および
傷損喘息子宮の衝逆を治す月水を
順みれば又二便の通ずる毎に痛を治す
用る良し且顔色を怡しく使走馬疔
水腫足腫虫疔を治す右各隔日十五滴を
服す一歳一歳みれば滴数其歳の数用ゆ

一都て七日一交是を用ゆれば淋熱
病赤痢小瘰及び其他の諸病を免る又
牙へんじ様の精気と交和し身中小刺
入る時と頸痛を治す一月或ハ半月
すなげ茶を投ず點一四皆ふぬれを
其茶を及ふ及ふとも眼力の衰ゆるを
惡瘰の瘰癧を治す是を傳け且服すれん

假令 花瘡の類と云ふも治せしむ
火傷の如く布に浸し貼りしむ
又齒痛眩暈は良し 聲小を綿敷
浸し身中不入海し 数年を経る 難治の
症物と云ふ常にも用ゆれ 治癒 後痛
疝瘕みと三十滴を治すれ 後更し治し
児腹痛し 啼くる其時 三三滴を

後すむれ 即ち治し 甚しき
是と綴せしむ 精氣を補す 又胃痛
す用す 膀胱の石を治す 石を
接れ 石あるを治す 定ゆる 石の
もの 一七 或は二七 の間隔を
痛を治す 石悉く 延計の 解け
下敷し 又石の 百粒 夕二十 九滴を 綴す

惣退の奇効あり都て付果を後
古よりと葡萄酒或ハ乳汁と和し用ゆ
能封一固め貯へばは五十年を経る
腐るるあり

晴侯氏日記書

